

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 67

2010.10.16 (土)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

**「今月の日本の海 沖縄県名護市辺野古」**

沖縄県沖縄島北東部の名護市辺野古と隣接する大浦湾はジュゴンが生息し、巨大なアオサンゴが生き残る沖縄の宝の海だ。政府とアメリカ軍は、普天間基地の撤去の条件にこの海の埋め立てを画策している。しかし、調べれば調べるほど、辺野古と大浦湾には、貴重な



海の生き物がたくさん息づいている。公共工事で壊され続けている沖縄の海は自然。辺野古の海を埋め立てるのは、沖縄の息の根を止めることになりかねない。

(名護市辺野古の海と大浦湾 立川賢一氏撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の日本の海」 沖縄県名護市辺野古

主張：尖閣列島周辺の海は国際海洋保護区に

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する本と web
5. 事務局便り
6. 編集後記

\*\*\*\*\*

## **主張 「尖閣列島周辺の海は 国際海洋保護区に」**

尖閣（中国名で釣魚台）列島において、日中間の領土問題が発生し、緊張が走ったのは記憶に新しい。検察の政治的判断で中国人船長が釈放されるというわかりにくい展開だったが、とりあえず日中首脳の間談も行われ、一応の終息をした。日本政府は、尖閣諸島は日本固有の領土であり、東シナ海に領土問題は存在しないと何度も繰り返している。一方の中国政府は中国固有の領土であると主張しており、領土問題は存在しないというのは、あり得ないことである。領土を巡ってこのようなもめ事があること自体、領土問題の存在を示しているからである。

マスコミに表れる日本人の多くの識者の意見は、尖閣列島は日本固有の領土であるとしている。日本共産党も、それを支持した。もっともマスコミというのは、かなり偏った報道をするのが昨今明らかになっているので、信用できるかどうかは各自でよく事実を調べる必要があるだろう。戦前でさえ、哲学者の三木清が弾圧を覚悟の上で、尖閣諸島は日清戦争のときに、日本が強奪したものという見解を著している。

ここでは、われわれは尖閣列島の主権がどこにあるかを論じるつもりはない。ただ、ここが紛争の源であり、戦争状態さえも惹起する可能性をもっている領土問題が存在することを前提にして、提案したい。

尖閣列島自体は小さな数少ない島の集まりであるが、その周辺は豊富な水産資源を有し、また、石油や鉱物など天然資源が豊富なことが明らかになって以来、両国の間で熾烈な領土問題が発生した。領海よりも経済水域（EEZ）こそ、両国の狙いなのだ。

われわれの提案は、この尖閣列島周辺の海を日中共同で管理する海洋保護区にすることである。そうすることにより、尖閣列島周辺の海における漁業利権も石油や鉱物資源の開発利権も禁止でき、日中両国の領土争いが意味のないものになる。日本は海の生き物を保護することに何事も消極的だと国際的に非難されているが、COP10の議長国として、大規模な海洋保護区の設定で、日本への信頼も高まるだろう。そして、アメリカと同じように生物多様性条約に加盟していない中国を海洋保護区の設定で条約に加盟させるという副産物

もあるかもしれない。なによりも武力紛争を回避し、平和的に領土問題を半永久的に棚上げでき、しかも海の生き物の重要な宝箱を私たちの子孫が手に入れることができるのである。

北方四島についても、日露の共同管理で知床半島を含んだ世界遺産にという運動も始まっている。紛争を海洋保護区に転換する新しい発想が人類もこの国も救うことになると思う。

**【訂正】** うみひろも66号の「今月の海の生き物」で紹介したハサミシャコエビの分布北限は、青森県陸奥湾と言うことですので、訂正します。お知らせいただいた鈴木孝男さんに感謝いたします。有り難うございました。

## 1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

### 【全国】

#### ●ラムサール条約登録湿地候補に全国の172ヶ所 泡瀬干潟も

環境省は、9月末にラムサール条約登録湿地候補を発表した。登録湿地としての国際標準を満たすと認められた全国172ヶ所が候補となった。いま問題の沖縄県の泡瀬干潟も候補になった。これらのうち、地元自治体が賛同したものから次回COP11以降、順次登録を進めるとしている。これまでに国内で登録した湿地は37ヶ所、世界では1898ヶ所。候補地は、サロマ湖、能取湖、根室湾・温根沼、厚岸湾、下北半島大間崎、陸奥湾、志津川湾、万石浦、松島湾、松川浦、九十九里浜、東京湾富津、東京湾葛西海浜公園、東京案三番瀬、東京湾小櫃川河口干潟、小笠原諸島砂浜海岸、鳥屋野潟、七尾湾、伊豆半島下田周辺、浜名湖、汐川干潟、三河湾干潟、伊勢湾、有田川河口干潟、味野湾・玉野湾、安芸湾、榎野川河口周辺、油谷湾、吉野川河口干潟、有明海、中津干潟、奄美大島、大浦川河口、羽地内海、泡瀬干潟など。

#### ●多様性条約COP10で海洋保護区20%を GPが提案

国連の生物多様性条約（CBD）の第10回締約国会議（COP10）が18日から始まる。環境保護団体のグリーンピース・ジャパンは、レポート「生物多様性の保護と水産資源回復へのロードマップ」を発表した。世界規模で過剰・違法な漁業が海の生物多様性を破壊し、将来の漁業と食を脅かす状況の中で、世界の海の40%を海洋保護区にすることを目指し、とりあえず2020年までに20%を合意するよう提案したもので、「海洋保護区グローバルネットワーク」を設立すると発表した。

### 【東北】

#### ●猛暑でホタテの斃死が続く

今年の夏の猛暑による高水温で青森県陸奥湾のホタテガイに大量の斃死が発生している。各漁協では高水温で弱っているホタテガイの出荷を控えているため、市場ではホタテガイが品薄で、価格が急騰している。漁協が水揚げを控えているのは、ホタテが弱っているため、養殖施設を動かすとさらに斃死が拡大するおそれがあるからだ。産直施設でも販売の制限を始めている。

## ●陸中海岸国立公園の拡大構想が浮上

環境省は国立・国定公園の指定状況を見直す総点検を行っているが、青森県八戸市の国の名勝に指定されている種差海岸と南三陸金華山国定公園を陸中海岸国立公園に編入する方針を明らかにした。さらに八戸市長も民主党に国立公園編入を働きかけるなど、動きが具体的になってきた。編入には地元の合意が必要で、種差海岸については、八戸市周辺の自治体の賛同が必要だが、久慈市や洋野町などでは規制がかかることを心配する声が出ており、今後の話し合いに期待が持たれる。自然公園に指定するとなるとかならず土木工事が規制されることになるという反対論が出てくるが、土木工事がこれまでいかにして日本の自然を破壊してきたかをもう少し反省してもらいたいものだ。

## 【近畿】

### ●エチゼンクラゲ 今年は姿なし

昨年は日本海で大量に出現し、定置網漁業などに大きな被害を与えたエチゼンクラゲが、今年は10月に入っても京都府沖の日本海では見つかっていない。日本海全体でもまだ5個体しか見つかっていない。昨年の10月は一日で平均1万から1万2千個体も定置網に入った。繁殖する東シナ海の水温が今年の春は低かったことから発生が抑えられたのではないかと考えられている。

## 【中四国】

### ●山陰海岸が世界ジオパークに加盟

兵庫県や鳥取県、京都府にまたがる山陰海岸が、世界ジオパークネットワーク（GGN）に加盟することが正式に決まり、鳥取県岩美町役場町民ホールに三府県の関係者が集まって式典を行い、悲願達成を祝い合った。平井伸治鳥取県知事は「山陰海岸がようやく世界の大舞台に立つ」と喜んだ。国内外から多くの観光客が集まることを期待している。

### ●猛暑でシジミの大量斃死 宍道湖

今年8月末から9月下旬まで、全国一の水揚げを誇る宍道湖のヤマトシジミが大量に斃死していることが明らかになった。島根県水産技術センターの調査によると、今夏の猛暑によって水温が上昇し、シジミの生息域に貧酸素水塊が広がったのが原因と考えられている。

水産技術センターでは、今後の稚貝や資源への影響を調べる予定。猛暑の影響は各地で現れているが、この傾向が毎年続くと、水産資源のみならず、多くの海の生き物に深刻な悪影響を及ぼしかねず、1980年代から続いている水産資源と同様の個体群の絶滅や極端な減少が起りかねない。

### ●ウミガメは知っている 健全な海岸と壊された海岸

徳島県南部の海岸に今年は多くのアカウミガメの上陸があった。しかし、海岸によって上陸するアカウミガメが増加した海岸と、上陸が少なかった海岸の二極化が進んでいる。美波町の大浜海岸、海陽町の大里松原海岸、阿南市の蒲生田海岸の三つの海岸には合計 135 頭のアカウミガメが上陸して産卵した。一方、それ以外の海岸は上陸数が少なくなっている。原因は、砂浜の侵食が進み、防波堤の整備や護岸工事などで産卵する砂浜が減っていることである。昨年美波町では大浜海岸について上陸が多かった木岐白浜海岸は、今年始めて上陸がなかった。調査した 36 海岸のうち、前記三海岸の上陸数が全体の 84%を占め、10 海岸は 7 頭以下、23 海岸はゼロだった。地元住民によると木岐白浜海岸は、約 20 年前に近くの港に防波堤が整備されて以来、浜に大波が押し寄せるようになり、数十mあった砂浜は侵食されて、現在では数mしか残っていない。ウミガメが産卵する砂浜が無くなってしまっているのは、残る三海岸も心配になる。

### ●サンゴ食害生物の駆除を終了 愛南町

愛媛県宇和海の愛南町沖で、珊瑚を食べる動物の駆除作業を行っていた宇和海海中資源保護対策協議会は、10月初めに駆除作業を終了した。今年はダイバー述べ 66 人が 11 日間作業し、オニヒトデを 128 匹、巻貝のレイシガイダマシ類を 18,800 個体、駆除した。この数字は昨年に比べてそれぞれ 42%増加および 10%減少した。協議会では、オニヒトデが増えたのは、水温が例年より 1℃高かったことが原因かもしれないと話している。

### ●ウミガメの孵化が続く 105 日 記録更新

高知県四万十市の平野海岸に今年上陸して産卵したアカウミガメの卵が、孵化を続けている。産卵から孵化までにすでに 105 日を超え、日本最長記録を更新した。まだ孵化していない卵もあり、今後記録がさらに更新される可能性もある。

### ●中国電力が再び埋め立て強行の構え 上関

15 日早朝、中国電力の埋立工事台船が埋立現場目指して動き出した。中国電力は田ノ浦の埋立工事を本格的に再開するつもりのように、現地では緊迫した空気が流れている。15 日

午前2時半、真夜中に動き出した台船の周りを急を聞いた祝島の漁船団が取り囲む。2隻の台船は、祝島と田ノ浦の中間点で立ち往生をし、中国電力の警戒船が工事妨害をしないように説得を続ける。「海を売った覚えはない」漁民たちは一步も引かない。田ノ浦の海岸では急を聞いた祝島の住民ら50名と全国から集まった30名が抗議の声を上げ続ける。膠着状態に陥った2隻の台船の動きとは別に、中国電力は別の台船をひっそりと田ノ浦に向かわせる。田ノ浦に到着した台船。しかし、工事は行えない。午後4時半、中国電力は今日の工事をあきらめた。16日以降、工事を強行する予定のようだ。全国から抗議の声を以下のところへ。「いつまでも田ノ浦の海がこのままきれいな状態でありますように！！」



地元住民や全国の多くの声を無視して埋め立てを強引に進めないようみなさんの声を届けてください！

抗議の連絡先 (下記以外にも国会議員その他への働きかけもよろしく願いいたします)

中国電力 TEL 082- 241-0211 FAX 082- 523-6185

メールフォーム [https://cc-www.energia.co.jp/faq/1024/app/servlet/ext\\_inquiry\\_a?linkid=904&linkstr=%8C%B4%8E%71%97%CD%8F%EE%95%F1](https://cc-www.energia.co.jp/faq/1024/app/servlet/ext_inquiry_a?linkid=904&linkstr=%8C%B4%8E%71%97%CD%8F%EE%95%F1)

中国電力 上関原発準備事務所 TEL 0820- 62-1111

山口県知事への提言 TEL 083- 933-2570 FAX 083- 933-2599

メールフォーム <https://cgi01.pref.yamaguchi.lg.jp/gvosei/koho/chiji-teigen/3teigen.htm>

## 【九州】

### ●諫干開門調査「費用対効果に疑問」 山田前農相

菅内閣の農水相だった山田衆議院議員は、地元長崎に帰って民主党県連代表に就任したが、その就任記者会見で、農水相時に諫早潮受け堤防の長期開門調査に前向きな立場を示して

いたことを聞かれ、「防災面と農業用水の確保にかなりの予算が必要になる。それに見合う効果があるのか」と疑問を呈した。諫早干拓事業に賛成議員が圧倒的な長崎県連の代表という立場で発言したのだろうが、立場によって意見を変える山田議員の発言に記者からも追求の質問があったが、山田議員は「前任者の赤松農相が『開門調査をしたい』とのことで、私も一応開門調査の検討をした」と、前任者のせいにし、開門調査に反対する県連の立場を強調した。呆れた議員だ。

## ●チッソ再編計画「全面公開は困難」 松本環境相

松本環境相は、視察先の水俣市で記者の質問に答え、昨年成立した水俣病特別措置法に基づいて水俣病の加害企業であるチッソ(株)が分社化を目指して環境省に提出する事業再編計画を公開するのは難しいと述べた。その理由について「企業秘密や競合会社との関係」と企業の言い分を一方的にあげる姿勢を見せた。分社化については、「チッソが責任をとらないので反対」(胎児性水俣病患者の坂本しのぶさん)との声が強い中、チッソの救済に動いた環境省は今後、患者のみならず国民へ十分納得できる説明をするべきだ。

ところで、チッソ(株)がテレビなどの液晶パネルを作って大儲けしていることが、今年のノーベル化学賞の報道などによって明らかになった。儲けたカネはすべて患者への補償に使うべきとして存続を許された会社が、儲けを自分のために使おうと画策したのが分社化のごまかしだ。環境省はチッソが儲けたカネを出させて、未認定患者の認定と賠償を行わせるべきだ。

## ●馬毛島の本出版 基地問題契機に専門家ら執筆



沖縄県普天間基地の撤去と合わせて移転先が問題になっているが、沖縄県外の候補地の一つにもなった鹿児島県種子島の沖に浮かぶ馬毛島は、土地を所有した企業が空母艦載機発着訓練の基地誘致に向けて滑走路の建設を、法を無視したやり方で強引に推し進めるなど、貴重な自然環境を破壊し続けている。市民団体「馬毛島の自然を守る会」のメンバーで島に棲むマゲシカの研究者の立澤史郎北海道大学助教など馬毛島の研究を行った専門家などが中心となって、このほど「馬毛島、宝の海」という本を出版した。関係者は「島の歴史や自然、乱開発の現状について多くの人に関心を持ってもらえれば」と話している。本は A5 判 139 ページ。税込み 1575 円。問い合わせは南方新社

(099-2485455)。

馬毛島には昨年、「海の生き物を守る会」からも視察に訪れた。海が荒れて馬毛島に行くことはできなかったが、行っても海岸にさえ近寄って観察するのも企業によって阻まれるという無法状態。滑走路建設のために森林は伐採されてしまっている。これからも馬毛

島の開発には注意が必要である。

### ●徳之島町大瀬川河口 貴重な野鳥のすみか

鹿児島県徳之島町亀津の大瀬川河口付近の干潟に、アオサギやコサギ、セイタカシギ、ハマシギなど水鳥が多数集まっている。セイタカシギは環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種（IIB 類）に分類されている。大瀬川河口の干潟は、徳之島町天城町浅間干潟と並んで貴重な野生生物の生息する干潟として守り続けたいところだ。

### 【沖縄】

### ●「屋我地漁港海岸整備工事」 漁港は完成 護岸は 2012 年までに

「うみひろも 66 号」に書いたように、沖縄県北西部の屋我地漁港海岸整備工事によって周辺で唯一残された自然海岸である済井出浜の護岸工事が行われようとしていることに対して、「沖縄自然環境を守るネットワーク」が県議会に工事を行わないよう求める請願をしていた問題で、県議会経済労働委員会は「経過・処理方針等」という書類を公表した。それによると、漁港の工事は 2001 年度開始、2009 年度で完了。周辺の護岸工事は、地元住民の要望を入れて 2008 年に開始し、2014 年度完了を目指して工事を行っているという。しかし、漁港建設のための埋立免許は 2003 年度に取得しているのに、2001 年度開始とはつじつまが合わない。また、この護岸工事の名目は、高潮対策とのことだが、高潮被害があったと言うことは聞いたこともないと地元では言われている。地元の要請で公共土木工事が行われることが非常に多いが、地元の要請とは、地元土建業者の要請と読み替えた方がわかりやすい。沖縄県は土建業者の要請ではなく、環境保全を第一に進めるべきである。県自身が決めた「琉球諸島 海岸保全計画」に書いてあるように、済井出浜は「海岸環境を積極的に保全する地域」なのだから。

## 2、海の生き物を守る会 現在の活動と予定

### ●11月11日 パタゴニアで会を紹介

現在「パタゴニア江坂店」で行われている「ボイス・ユア・チョイス」の最終日11月11日夜に同店で「海の生き物を守る会」の紹介を行います。

### ●11月20日 日立環境財団NPO活動報告会

11月20日（土）午後、東京のKDDI会館で日立環境財団NPO活動報告会が開かれます。2008年度に同財団から助成を受けた海の生き物を守る会でも、活動報告を展示で行います。

## 3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

### 【関東】

#### ●OWS 北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト

##### 「造礁サンゴ モニタリング調査（安良里）」開催 調査協力者募集

伊豆半島安良里でのモニタリング調査を実施します。このサイトは2008年から観察を始め今回は3年目の調査となります。この調査に協力できるダイバーの方を広く募集します。サンゴ調査が初めてという方も参加いただけます。お気軽にお問い合わせください。

<参加するプロジェクトメンバーの研究者>

杉原薫 国立環境研究所 NIES フェロー 博士（理学）  
中井達郎 国土館大学・立正大学非常勤講師 博士（理学）  
山野博哉 国立環境研究所 主任研究員 博士（理学）  
浪崎直子 国立環境研究所 高度技能専門員 OWS 研究員  
北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクトとは？

⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/sango/index.html>

<造礁サンゴ モニタリング調査（安良里）>

⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/sango/chosa.html>

開催日 2010年10月23日（土）～24日（日）

開催場所 静岡県西伊豆町安良里

参加条件 (1) 50本以上のダイビング経験者  
(2) 2日間連続参加が可能な方(4ボートダイブ)

募集人数 7名程度

参加費 メンバー : 32,000円  
一般 : 35,000円

※4ボート・宿泊費（1泊2食）・保険代込 交通費・昼食代は別途

申込み・問い合わせ ホームページのお問い合わせフォームまたは、E-mail、お電話にてお申込み・お問い合わせください。⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/sango/chosa.html>

#### ●OWS ネイチャースクール（保護者参加プログラム）参加者募集

##### ～三浦半島日帰りバスツアー～

このプログラムは、三浦半島の海岸を活用して実施する1日のコースで、海辺の自然観察と生きものしらべ、クラフト教室を組み合わせたOWSオリジナルのネイチャース

クールです。今回のネイチャースクールでは、小学生から高校生までの子供、そしてその保護者もいっしょに参加いただけます。新宿駅西口から大型バスで出発します。ご家族やお友達を誘って、この機会に海辺に出かけましょう！

開催日 2010年11月28日（日）日帰り

募集人数 30名

参加費 2,000円／1名（クラフト材料・教材・保険代）

集合場所 新宿駅西口 7:30 （三崎口駅集合も可。ただし料金は同額です）

詳しくは、ホームページをご覧ください。

⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/index.html#NS1128>

チラシ（PDF） ⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/NatureScool2.pdf>

### ●コカ・コーラ教育・環境財団 第3回公開講座

#### 「鯨と捕鯨の過去、現在、未来—どうする日本の捕鯨と食文化—」

日時：11月11日（木曜日）18:00～20:30

会場：東京学芸大学 C 講義棟 C201教室

参加費：無料

参加申込：不要（当日、会場へお越しください）

講師は、政策研究大学院大学教授、元・国際捕鯨委員会(IWC)日本代表代理の小松正之氏です。小松氏はこれまで、商業捕鯨再開を目指す日本の交渉役として IWC など国際会議の場で活躍してこられました。『クジラと日本人—食べてこそ 共存できる人間と海の関係』『クジラその歴史と文化』など、捕鯨についての著書も多く出版しておられます。

### ●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

10月17日(日) in 群馬→→[CORE FESTIVAL](#)

10月17日(日) 東京日比谷公園にて鎌仲監督もトークで参加！

### ●平和都市宣言10周年記念事業 映画『祝の島』上映会・額額あや監督講演会

10月17日(日)

会場：[国立公民館地下ホール](#)（東京都国立市中 1-15-1）

上映：開場 12:45 開始 13:00 終了 14:45

講演：開演 15:00 終演 15:50

### 【東海】

#### ●映画「祝の島」上映会

名古屋シネマスコーレ（愛知県名古屋市中村区椿町8-12アートビル1F）

上映時間：10月9日(土)～10月15日(金) 14:45～16:30

**【近畿】**

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

大阪（九条）シネ・ヌーヴォ（大阪市西区九条 1-20-24）

10/9（土）～10/22（金）

10/23（土）～11/5（金）シネ・ヌーヴォ X

10月16日（土）in 京都→エントロピー学会関西セミナー



●東条雅之 祝島写真展

11月6日（土）～14日（日）→じゃんじゃん横丁  
（和歌山）

※「じゃんじゃん横丁」といえば大阪新世界が有名  
だけれど、和歌山です。お間違えなく。

11月16（火）～21日（日）→てんつくゲストハウ  
ス

11月23（火祝）～28日（日）→じよんのび

●映画「祝の島」上映会

【空の祈りと島の願い】

【日時】 2010年10月16日（土）

13:30-14:20 ドキュメンタリー映画上映A

14:30-15:00 トークショーA

15:30-17:00 ドキュメンタリー映画上映B

17:10-17:40 トークショーB

※プログラムAは、ヒマラヤ&チベットに関  
するドキュメンタリー映画&トークショー

※プログラムBは、祝島に関する映画&ト  
ークショー

【場所】 スタジオ Sana <http://www.geocities.jp/mediastudiosana/>

〒540-0004 大阪府大阪市中央区玉造2丁目26-70

TEL/FAX 06-7493-0230

【交通】 JR 環状線「玉造駅」から徒歩10分/地下鉄長堀鶴見緑地線「玉造駅」1番出口から  
徒歩5分

【定員】 20名 予約要・先着順

【料金】 1500円（A・B共通）

【主催】 INUI YUKI、尾崎ゆうき

【協力】 SFT Japan

【イベント内容】 —— 「ドキュメンタリー映画上映＋トークショー＋コンサート＋写真展」

■ ドキュメンタリー映画

A 「メルトダウンインチベット」(約 40 分)

国はなぜチベットに多くの巨大ダムを建設しようとしているのか？ 下流で暮らす人々に振りかかる災難とは？ 中国はいったい何をしようとしているのか？ 中国の水資源政策がはらむ危険やその影響に言及したドキュメンタリーです。

監督：マイケル・バクリー/2009/カナダ/40 分

B 「祝の島」(約 105 分)

山口県上関町祝島——瀬戸内海に浮かぶ人口約 500 人のこの島は、岩だらけで確保できる真水も限られ、暮らしやすい環境とは決して言えない。そんな中で島民は海からもたらされる恵みに支えられ、暮らしを営んできた。1982 年、島の対岸 4 キロメートルに原子力発電所の建設計画が浮上する。しかし、「海は私たちの命」という祝島の人々は、「海と山さえあれば生きていける。わたらの代では海は売れん」と、自分たちの生活を守るべく、28 年間反対を続けている。

監督：額瀨あや/2010/日本/105 分

■ トークショー

A 空の祈り

チベットの清き文化の紹介と中国政府による人権と文化抹殺。約 9 ヶ月のチベット滞在中、尾崎ゆうきが持ち帰ったチベットの今を報告します。

報告者：尾崎ゆうき/約 30 分

B 島の願い

原発建設に巻き込まれた小さな島。周りが原発の建設に判を押す中で、島の人が守り抜こうとしている思いとは何か。祝島に渡ること 6 回の INUI YUKI が島の生活と原発に対する思いを報告します。

報告者：INUI YUKI/約 30 分

→[INUI YUKI さんの祝島写真](#) →[INUI YUKI さんのブログ「しゃしんがすき」](#)

【北陸】

●映画「祝の島」上映会

10 月 17 日 (日) 15:00～

場所：[acci-cocci](#) (新潟県佐渡市豊田 50 番地)

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

10 月 16 日(土) in 福井

## 【中四国】

### ●2010年秋“虹のパレード”

11月27日(土) 午前11時～ 山口県庁前庭集合

全国から上関原発をやめてほしい!という300枚以上集まった布メッセージ。この思いが込められた布メッセージを持って市内を1時間ほど歩きます。一緒に歩きませんか?

ゆるゆるつながりトーク&ライブ

日時 11月27日(土) 午後3時30分～午後6時30分

場所 “まなまな” 美祢市美東町真名445

電話 0839-65-0896

出演 源の助、en.(エン) その他

参加費 カンパ

※カレーなどの飲食販売は行っています。

お問い合わせ : ゆるゆるつながりネットワーク

村川博司 TEL090-2862-1367 メール [hiro2361@hotmail.com](mailto:hiro2361@hotmail.com)

まなまな TEL0839-65-0896

### ●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

10月16日(土)～11月5日(金) 広島横川シネマで上映

上映時間→11:30/16:10/18:40

## 【九州】

### ●「有明海の特異な生物相—諫早湾の環境復元の意義—」

#### 有明海の生物多様性保全のための四学会合同シンポジウム

日本の他の海では見られない生物がたくさん生活しているかけがえのない内海、有明海。その奥部の広大な泥干潟を閉めきった諫早湾の干拓事業について、生物研究者の4学会は、事業の中止・中断、諫早湾の現状復帰、あるいは長期開門調査の実施などを求める要望書を提出しています。その内容を紹介し、生物多様性保全の視点から、諫早湾の環境復元の意義を論じます。

日時: 2010年11月27日(土) 13:30～16:30

会場: 諫早市民センター講堂(長崎県諫早市東小路町8-5, TEL: 0957-23-1160)

参加費: 500円(資料代)

主催: 日本魚類学会、日本生態学会、日本ベントス学会、軟体動物多様性学会保全委員会

プログラム

はじめに 「学会からの要望書提出の経緯」 佐藤正典(鹿児島大学)

講演「有明海の魚類相」 山口敦子(長崎大学)

講演「有明海の貝類相」 福田 宏（岡山大学）

講演「諫早湾閉めきり以降の有明海奥部の底生生物相の変化」 佐藤慎一（東北大学）

特別講演「韓国スンチョン市での干潟保全の取り組み」

チェ・ドクリム（スンチョン市経済環境局長）

コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」 国会議員（氏名未定）

問い合わせ先：

日本ベントス学会自然環境保全委員会 諫早湾問題検討委員会

佐藤慎一（TEL：022-795-6771; eメール：[kurosato@mail.tains.tohoku.ac.jp](mailto:kurosato@mail.tains.tohoku.ac.jp)）または

佐藤正典（TEL：099-285-8169; eメール：[sato@sci.kagoshima-u.ac.jp](mailto:sato@sci.kagoshima-u.ac.jp)）

## 4. 海の生き物とその環境に関する本とweb



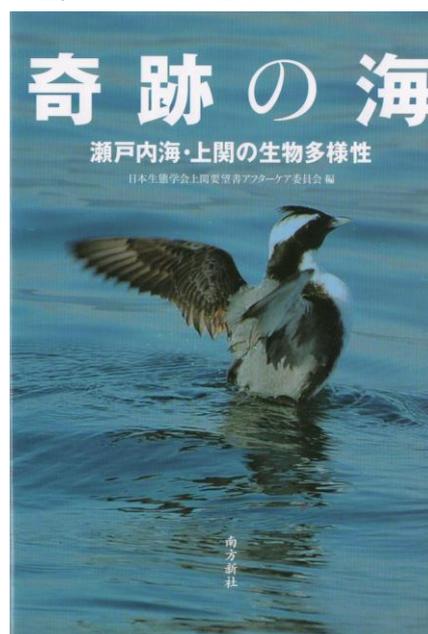
●『**味わう生物多様性 おさかなガイドブック**』  
生物多様性条約市民ネットワーク沿岸・海洋生物  
多様性保全にかかわる作業部会（編） 2010

CBD 市民ネット沿岸・海洋作業部会で発行したパンフレ  
ットです。魚好きの日本人に海の生物多様性の重要性を訴  
えるもの。絵とお話しで多様性をわかりやすく伝えている。

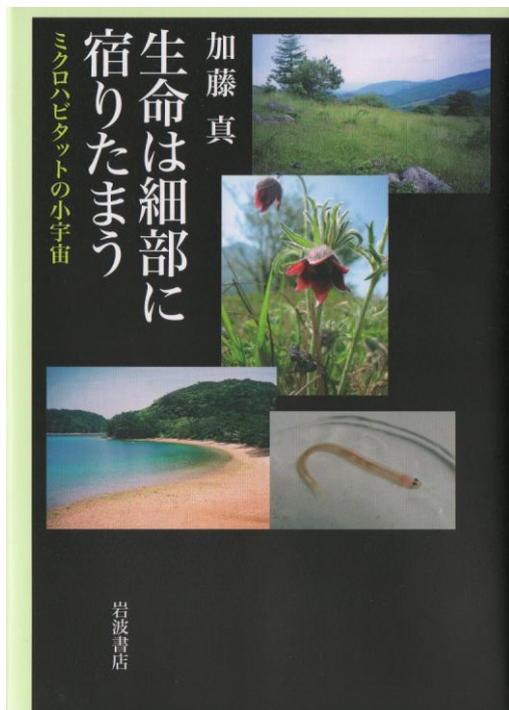
●「**奇跡の海 瀬戸内海・上関の生物多様性**」日  
本生態学会上関要望書アフターケア委員会（編）  
南方新社 pp.237 ¥2,000+税 (2010)

2000年に日本生態  
学会が山口県上関

町に中国電力が原発建設を計画していることについ  
て、自然保護に対する真摯な取り組みを求めて要望書  
を提出したことをはじめとして、日本生態学会・日本  
鳥学会・日本ベントス学会の3学会がこれまで合計  
12回も要望書や要求書を提出してきたにもかかわらず、  
中国電力や経済産業省は、何らの対応もとらなか  
った。そのため、埋立許可が出されて、海の埋め立て  
が実施されようされる昨年、三学会が要望書の説  
明を兼ねて合同シンポジウムを各地で開いてきた。こ  
の本は、そのシンポジウムで訴えてきた上関長島の田  
ノ浦周辺の海の生き物、その海の多様性を支える森の



生き物など、瀬戸内海の最後のとりでと言われる上関の自然と原発建設によって失われる宝物を詳しく解説したもの。



●「生命は細部に宿りたまう ミクロハビタットの小宇宙」 加藤 真 岩波書店  
pp. 132 ¥1,800+税

「日本の渚」の著者、加藤真さんが岩波書店の雑誌「科学」に連載していたエッセイ集を単行本で出版。波打ち際、礫浜、砂堆などのこれまであまり注目されてこなかった小さなハビタットに生活する生き物を、各地を歩いて調べた結果から書き記し、これらの小宇宙が次々と無くなりつつある現実を何とかしなければと訴えている。上関原発建設予定地の田ノ浦に人知れず生活しているミミズハゼの多様性の高い種群についての記述もある。

## 5. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金さ

れる場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

## 6. 編集後記

いよいよ 18 日から生物多様性条約の第 10 回締約国会議 COP10 が名古屋で始まる。すでにプレ会議が始まり、先進国と開発途上国との間で遺伝資源の取り扱いを巡って意見が対立していると聞く。しかし、そのような分け方は、開発が善だという古い考え方から導き出された分け方で、生物資源を持つ国と資源を奪おうとする国の間に起こる矛盾ということなのだろう。とくに今回の COP10 では、海の生物多様性保護に焦点が当てられている。海洋保護区を作らなかった日本のやり方が今後も認められるかどうか、世界が議長国の日本のやり方に注視している。尖閣列島、辺野古、上関など自然が残された貴重な海を一時も早く海洋保護区に設定して海の生き物、ひいては私たちの将来の生活が自然からの生態系サービスによって保証されるよう期待します。(宏)

**海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！**

## 会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第 67 号

2010 年 10 月 16 日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会